２０２６年度

広島県ソフトバレーボール連盟

伝達講習会資料
申し合わせ事項と確認事項

ひ ろ し ま

審 判 委 員 会

2026年度広島県ソフトバレーボール連盟

審判上の申し合わせ事項と確認事項

＊二重線は申し合わせ事項(広島県独自)

1　審判員について

主審・副審とも、（公財） 日本バレーボール協会公認ソフトバレーボールアクティブリーダー及びリーダー（以下「リーダー」という）資格取得者又は、広島県ソフトバレーボール連盟審判講習会修了者でなければならない。

主審・副審とも、リーダー・ワッペン又は、広島県ソフトバレーボール連盟発行の審判員証を胸の中央に着用する。

公式記録法が採用されない大会で、記録員が省略された場合、副審がラインアップシート（サービスオーダー表も含む）を管理し、サービス順の反則・アウトオブポジションの反則が起きた場合は、直ちに吹笛しゲームを中断する。

2　キャプテンマーク・監督マークの着用について

チームキャプテンはユニフォームと異なった色で、胸番号の下にキャプテンマークを付ける。キャプテンマークが準備できない場合は、腕章でも可能とする。（腕章は、ユニフォームと異なった色で、審判から見えやすいように着用する事。）

監督は、左胸に監督マークを着用する。

3　選手の位置などの指導とラインアップシートについて

(1)　各セットの開始時には、必ずスターティングラインアップを確認する。
提出されたラインアップシートと実際の選手の位置に誤りがあれば、これを正規の位置に訂正する。
スターティングラインアップに記載されていない選手がコート上にいた場合に、記載通りの選手に戻すが、チームが希望した場合に限り、その選手をコート内に残しスターティングラインアップ用紙を訂正する。（１名のみ）

(2)　アウトオブポジションの反則が起きたときには直ちに吹笛しゲームを中断する。
どこが（誰と誰が）反則なのかを明確に指摘し、必要に応じてゲームキャプテンにその内容を口頭で伝える。

(3)　サービス順の反則が発生した場合について
誤って打ったサーバーと正しいサーバーを示し、必要に応じてゲームキャプテンに次のサービスを行う選手を口頭で伝える。

(4)　年齢区分がある試合では、ラインアップシートを記載する時は、低年齢層の番号を○で囲み提出する。

4　隣接するコートについて

プレー中、隣接のコートに選手が入った場合、ペネトレーションフォルトの反則。
許容打数の範囲内のボールが、隣接のコートに入った場合は、ボールアウトとする。
又、サービスゾーン後方の、隣接するコート内からサービスをしようとしている選手には、サービス許可を出さず、フリーゾーンの中から助走（サービス）するように指導する。

5　ワンタッチとアウトのハンドシグナルの基準について

選手がボールに触れ、その選手側でボールアウトのケースでは、ワンタッチのハンドシグナルとする。

6　ファミリーの部と小学生の部について（特別規則）

（ファミリー規則）

(1)　ファミリーの部では、ラリー中の自チーム内でのボールヒット３回のうち１回以上は小学生が触れなければならない。（反則）ただし、大人のブロックは除く。

(2)　ファミリーの部では、大人のサービスはアンダーハンドサービス（ボールヒットの位置が脇より下部であること。）とする。

(3)　小学４年生以下の選手は、ショートサービスラインより後方のコート内からサービスをすることができるが、その場合はアンダーハンドサービス（ボールヒットの位置が脇より下）でなければならない。
又、エンドライン後方のサービスゾーンからオーバーハンドサービスを行った場合は、エンドラインを踏むか、又は踏み越した場合は反則となる。

（小学生規則）

(4)　小学４年生以下の部のネットの高さは１８０㎝とする。

(5)　小学生の部はフリーポジションとする。なお、選手はサービスが打たれるまでコート内にいなければならない。

(6)　小学４年生以下の選手は、ショートサービスラインより後方のコート内からサービスをすることができるが、その場合はアンダーハンドサービス（ボールヒットの位置が脇より下）でなければならない。
又、エンドライン後方のサービスゾーンからオーバーハンドサービスを行った場合は、エンドラインを踏むか、又は踏み越した場合は反則となる。

※特別規則を設ける場合は、プログラムに掲載し代表者会議で説明する。

7　罰則の適用について

罰則カードは使用せず、罰則に値する行為は大会本部に報告する。

8　負傷者が発生した際の対処について

ソフトバレーボールは、年齢区分や性別によってチームを構成しているので病気や負傷などの理由でやむを得ない場合、高年齢区分の選手が低年齢区分の同性の者との交代を認め、なるべく「没収の処置」を避けるように配慮している。

手続きについては、次の手順でおこなう。

※　負傷者(病気)の発生

① 応急処置をする。（移動できる場合はコート外で行う。）

② プレー続行ができない場合、選手の交代（正規の交代）をする。

③ チームにタイムアウトが残っている場合は、その回数を伝え使用の有無を確認する。

④ 正規の選手交代ができないとき、「例外的な交代」を認める。

⑤ 例外的にも交代できない場合は、３分間の回復タイムを与える。（このタイムアウトは最終である。）

⑥ それでも回復しない場合は、そのチームは失格となり、次のセットの開始時に回復してない場合にはその試合は没収される。

⑦ 相手チームに対しては、そのセットまたはその試合の勝者になるために必要な点数が与えられ、失格になったチームのそれまでに得た得点は生かされる。

没収セット(試合)に関する確認事項

1　参加(出場)資格に抵触する不正な選手が出場したとき。
（例として）
(1)　年齢に偽りがあった。
(2)　同一大会において、２種目以上に出場していた。
※　このような場合、不正な選手を退場処分とし、不正な選手が出場した試合を含め大会当日の全試合を没収とする。得点は　15対０没　となる。
不正が判明した以降の試合（オープン試合）については大会本部で判断する。

2　負傷等により、正規にも、例外的にも交代選手がいない場合。
所定の処置を行った後、回復しないときはチームを失格（セット失格を適用）とし、相手に得点15点を与え、１５対 α 失と成績は正規の記録となる。
又、次のセットが同一事情でセットの失格になる場合は、セット失格とせず没収とする。

3　不当な選手がプレーした場合。
例えば、スポレクの部門（年齢区分がある種目）において、同一年齢の選手が同時にコートに入り、プレーをしたとき。
※　このような場合、間違ったチームのそのセットの得点を全て取り消し、サービス権を相手チームに与え、正規のメンバーにラインアップシートを直して、その試合を再開する。
（　例：　５　対　５　　発覚　→　　６　対　０　　試合再開　）

4　単なる選手番号を間違えた選手が、コート内でプレーした場合。
例えば、１番の選手がコートでプレーするところを間違えて２番の選手がプレーをしたとき。気が付いた時点で、正規の選手と交代とする。
※このような場合は、罰則は、なしとする。

外部から侵入してきたボールへの対応

1　プレーの停止について

次の時には、主審・副審は直ちに吹笛して競技を中断する。
プレーを停止させノーカウントとする。

(1)　危険なとき。又は、危険と思われるとき。
(2)　プレーに支障があると思われるとき。

2　プレーの続行について

次のような時には、プレーを停止しないで続行する。

(1)　侵入したボールが、コートの後の方を通過したとき。
(2)　バックの選手の付近に侵入し、プレーに支障ないとき。
(3)　ボール・デット後、ボールが侵入したとき。

※いずれにしても危険防止の措置なので、その場の適切な状況判断が大切である。
※プレーを停止する場合には、プレーが止まるまで長く吹笛し続ける必要がある。

競技参加者の規範と罰則

1　監督、キャプテン

監督およびチームキャプテンは、チームメンバーの言動、規律に対して責任を持つ。

2　競技参加者の行為

競技参加者は、審判員の決定に対し、反論せず、受け入れなければならない。
質問がある場合には、ゲームキャプテンを通してのみ説明を求めることができる。

3　不法な行為

(1)　軽度な行為

競技参加者が、試合中にプレーへの牽制、判定に影響を及ぼすような行為、判定に対する執拗な話しかけや競技参加者の品位を損なう言動等軽度な不法な行為をしたときは、チームに注意する。
この注意は、主審がゲームキャプテンを通じて口頭で与える。

(2)　罰則に値する行為

①無作法な行為：口論や名誉を傷つける言動など礼儀作法や道徳に反した行為や態度など判定を不満とする反抗的態度をしたとき。
②侮辱的な行為：中傷的あるいは侮辱的な言葉を投げかけたり、ジェスチャーをしたとき。

※上記２点については、主審が大会本部へ報告する。

4　マナー

(1)　ガムを噛んでのフロアーへの立ち入りは全面禁止。
(2)　タオルを首にするときは、シャツの中へ入れる。タオルを腰に入れるのは良い。
(3)　タオルは巻かないで、汗拭き用バンド（バンダナ）を着用する。鉢巻は後ろで結ぶ。
(4)　手袋は着用できない。但し、理由があって大会本部に許可を得た場合は、着用を認める。
(5)　審判をする際に携帯電話を時計代わりに使わない。
(6)　カバンを肩などにかけて審判をしない。